

日中同形二字漢語動詞の語源調査

楊 馳

要旨：近代日本や中国などアジア諸国に欧米諸国の新しい概念が怒涛のように流入した。新概念を表すため、学術名詞が大量に作り上げられたことはこれまでの先行研究で明らかになった。また日中両国の語彙交流により、同形漢字語が多数現れ、今でも使用され続けている。その中、名詞だけではなく、動詞や形容詞など叙述語も知識体系の構築過程において編入され、多く増えた。本稿は、日中同形二字漢語動詞を抽出し、その語誌について調査する研究である。各種の資料調査により、中国語古典語と非古典語の数量を明確にし、語彙リストを作成する。今後の研究の土台となる基礎資料としたい。

キーワード：日中同形語、二字動詞、語源

一、はじめに

中国語の語彙変遷における大きな方向性は単音節から二音節への発展であるといわれている。現代中国語の語彙体系に、二字語は最も多い。周（1999）の調査により、『現代漢語詞典（修訂本）』（1996）の見出し語における二字語は総数の 67.625%を占めている、¹収録語数は約 56000 語余り。動詞に関して、沈（2014）は『等級划分』の調査により、現代中国語動詞に二音節動詞の数が最も多い、収録語数の 3500 語のうち 2652 語である、全体の 75.8%を占めている。中国語語彙の二字語化現象の萌芽は春秋戦国時代に始まったとされ、晋唐時代の仏典翻訳により甚だしい発展をし、二字語が単音詞に取って代わり、語彙体系の主体となることができたという。²近代に入り、中国語はさらなる転換期を迎えた。沈（2017）は「中国語が 19 世紀初頭から 1919 年の五四新文化運動を経て、現代語へと成長していく過程における最も大きな変化は、語彙の二字語化と言えよう」と述べている（沈 2017：15）。

19 世紀に在華宣教師らは西洋書籍を翻訳し、英華辞書を編纂したことにより二字語が大量に作り出され、中国語の語彙に莫大な影響を与えた。また、20 世紀に入ってから日本書を翻訳する際に日本語の借用、また刺激により二字語が急増し、現代中国語の語彙体系の基礎的な部分を作り上げられた。現代中国語二字語の形成過程を研究する際、とりわけ日本語が重大な影響

¹ 周薦（1999）「双字組合與詞典収条」『中国語文』第 4 期、304 頁。

² 沈国威（2017）「中国語語彙体系の近代化問題——二字語化現象と日本語の影響作用を中心として」、内田慶市編『周縁アプローチによる東西言語文化接触の研究とアーカイブスの構築』、ユニウス、15-35 頁。

を与えたことを無視できない。

日中両国は古くから様々な交流を行い、両国国民の相互理解と両国関係の発展を促進してきた。隋唐時代には日本から中国への遣唐使や学問僧が大勢渡り、その後、日本は中国の漢字の偏と部首を参考にして、大和民族自身の言語に相応する文字を作り上げた。近代以前の漢字語彙の移動方向は中国から日本へという流れであるが、近代に入り、日本が東アジアにおいていち早く欧米の近代文明を導入したことにより、多くの近代用語が日本で新しい言葉として生成され、それがまた中国語に移入された。

中国語二字語について、従来の研究では、語源の角度から考察する研究者が多く、連語が複合語へ発展していく語形成の面からの分析もあるが、外的要因と考えると、仏教經典の翻訳が大きな役割を果たしていた。しかし、19世紀から20世紀初頭までの間における二字語化の現象、つまり日本語による影響に関しては考察が十分に行われたとは言えない。董(2011)は中国語二音節語の由来を概ね次の三つに分類できると提唱している。「一是从短語降格而来，二是从由語法性成分参与形成的句法結構中衍生出来，三是本来不在同一个句法層次上但在線性順序上緊隣出現的两个成分所形成的跨層結構中脱胎出来。」³(一つはフレーズから降格された場合；もう一つは統語構造の文法成分機能の衰退によって語彙化が発生する場合；あと一つは元々別の統語構造に属する隣接した要素が一つ語彙になる場合)。一つ目の代表例は「窗戶」(並列構造から名詞へ)「鼓舞」(並列構造から動詞へ)「聰明」(並列構造から形容詞へ)「一再」(並列構造から副詞へ)「首飾」(偏正構造から名詞へ)「后悔」(偏正構造から動詞へ)「固執」(偏正構造から形容詞へ)「已經」(偏正構造から副詞へ)「冠軍」(動賓構造から名詞へ)「責備」(動賓構造から動詞へ)「虚心」(動賓構造から形容詞へ)「隨時」(動賓構造から副詞へ)「政治」(主述構造から名詞へ)「符合」(主述構造から動詞へ)などがある、二つ目の代表例は「所有」「記者」(名詞化標識+動詞性成分)などがある、三つ目の代表例は「否則」「以為」「几乎」などがある。フレーズが語彙化する過程はフレーズの特徴が徐々に弱くなり最終的に消えてしまう過程である、また、非典型的なフレーズしか語彙化候補に入れないという制限条件が判明した。

一方、言語接触の視点で日中間の近代新漢語の交流に対する研究が大きな成果を挙げたが⁴、その多くは抽象名詞や科学学術名詞などに焦点が当てられ、動詞についての体系的な研究は管見の限り見られない。以上のことから、本稿は近代二字漢語動詞の発達について初歩的な研究として、日中同形二字漢語動詞を抽出し、語誌調査を行う。中国古典語と非古典語の明確な数量を把握したい。

³ 董秀芳(2001)『語彙化：漢語双音詞的衍生和發展』商務印書館 33-35頁。

⁴ 沈国威(1994)『近代日中語彙交流史』笠間書院、荒川清秀(1997)『近代日中學術用語の形成と伝播——地理学用語を中心に』白帝社、朱京偉(2003)『近代日中新語の創出と交流-人文科学と自然科学の専門語を中心に』白帝社などが挙げられる。

二、本研究における日中同形の二字漢語動詞と古典語

日中同形語は日中対照研究の重要な分野の一つである。これまでの日中同形二字動詞について、構造関係や自他性など文法の視点から分析する研究が主流である。また語源研究は特定の語彙に絞って考察を行い、優れた成果が挙げられているが、動詞に関する体系的な研究は管見の限りでは見られない。本稿では現在日本語に使用する二字サ変動詞から日中同形語を抽出し、その語源を遡るという方法で、中国古典語であるか否かを考察する。

日中同形二字漢語動詞の選定手順は以下のように行った。まず『日本語語彙大系』の見出し語を対象とした。『日本語語彙大系』は NTT コミュニケーション科学研究所が監修し、NTT の日英機械翻訳システム ALT-J/E で用いられているコンピュータ用辞書を再編集したもので、30 万語日本語辞書と 14000 型パターンが収録されている大規模日本語辞書である。『日本語語彙大系』の「語彙体系分類」により、収録全語彙数は 274405 語で、その中の 18 万語ほどは固有名詞で、一般語は 9 万近い。その内、サ変動詞型名詞が 9587 語ある。本文は二字漢語動詞を研究するため、9587 語の中から二字サ変動詞 7414 語を抽出しリストを作成した。中国製か和製かを構わず、音読みの語である限り、全部漢語と認定する。

次に、日中同形語を抽出するため、二字サ変動詞リストを基に、『現代漢語詞典』(第 6 版)と『現代漢語規範詞典』(第 3 版)の見出し語と照らし合わせて調査を行った。日中同形の判断基準として、簡体繁体などの日中字体の差異を考慮せず、それぞれの字体を康熙字典体に戻し、歴史的に同一の字であれば同形と見なしている。以上の作業によって、日中同形二字漢語動詞 2485 語を得た。また、「握手」「乾杯」などのような離合詞を対象外にした⁵。

本稿における古典語は文字通り、中国古典書籍に使用例が見られる語彙を古典語と定義する。清朝の乾隆帝の勅命により編纂された、中国最大の漢籍叢書である『四庫全書』は中国古典書籍を経(経書)・史(史書)・子(諸子)・集(詩文集)四部分類によって整理されている。また、漢代から唐代まで盛んに続いた仏教經典の漢訳、四大奇書など白話小説、善行を勧め、悪行を戒めるための通俗的な書物善書(勸善書とも呼ぶ)、及び 16 世紀イエス会士らが翻訳した宗教や、西洋の一般的な知識に関わる書物などは、一般的に中国古典と見なされない、また『辞源』にも収録されていない。本稿では、そういう漢籍⁶に見られる語彙を非古典語と判断する。しかし、こちらの書物は紛れもなく漢文で書かれ、世間に流伝されていたため、視野に入れて考察する必要があると思われる。

文献調査の時間は、19 世紀から 20 世紀 20 年代までとする。一般的に、中国歴史界では 1840

⁵ 離合詞の判定基準について、『現代漢語詞典』(第 6 版)の判定に従い、離合詞記号「//」が入る語彙が離合詞と判断する。

⁶ 本稿では漢文で書かれた中国の書籍を指す。日本人や朝鮮半島の人により漢文で書かれたものは含まない。

年のアヘン戦争から1919年の五四新文化運動までが近代とされる。王(2004)は中国語の歴史を西暦13世紀から19世紀(アヘン戦争)までは近代、1840年アヘン戦争から1919年五四運動までは過渡期、20世紀(五四運動以後)は現代と定義している⁷。また、王氏は第四章「詞彙的發展」にアヘン戦争を切り目として、それ以前の借語・訳語とそれ以後の新語と区別した。しかし1840年はあくまで歴史上、政治上の切り目である、言語の切り目として適切かどうかは未だに明言できない。19世紀10年代すでにロバート・モリソンなど新教の宣教師たちが中国に渡ってきた。聖書の翻訳活動や英華辞典の出版などの活動により、中国語にある程度の影響を与えたと言えそうである。

一方、中国の近代化のためには国民の識字率を上げる必要があると考えた革新的な論者は、清末の変法維新運動の中で「文言文の廃止、白話文(語体)の採用」を主張した。変法維新運動そのものは政治的に敗れ、変法派は弾圧されたが、白話文は19世紀末にはある程度定着した。1917年頃から、胡適、陳独秀、魯迅らが雑誌『新青年』を舞台に白話文運動を展開した。1919年の五四排日運動が反封建の新文化運動に発展するとともに、白話文運動も勢力を増した。この時期の白話文運動は「五四白話文運動」と呼ばれている。1920年代には、教科書も白話文で書かれるようになり、白話文の使用が急速に広まった。「白話文」が事実上の共通文章語として定着した。

以上より、本稿では主として19世紀から20世紀20年代という時間帯の語彙使用を調査する。19世紀以前の経史子集に使用例が見られる語彙を中国古典語と定義し、その他の仏典・白話小説・善書・イエズス会士の造語などは非古典語と判断するが、調査対象として考慮に入れる。

三、調査資料

前節で述べたように、日中同形二字漢語動詞を抽出する際に、中国製か和製かを構わず、音読みの語である限り、全部漢語と認定した。本稿では、抽出した2485語を対象にし、語源について、中国古典語か否かについて考察を行った。中国古典書籍はおびただしい量があるため、かつて語源探求は研究者たちによる手作業でデータを積み重ね、人力にすべてを頼らざるをえなかった。資料収集に莫大な時間を費やす、より深く分析を行うための時間を保証できないし、場合によっては錯誤が生じる恐れもある。また、これまで日中同形語の研究に、主に名詞に焦点を置く理由の一つとして、膨大な文献から、動詞や形容詞など叙述語に比べて名詞を選別することが容易であることが考えられる。しかし近年研究環境の整備充実とともに大規模な近代文献データベースとコーパスの構築も文献調査に新たな可能性を開ける。

中国語国語辞典『漢語大詞典』『辞源』第三版の出版により、1840年代までに語彙の意味用法、

⁷ 王力(2004)『漢語史稿』中華書局(初版は1958年)、43-44頁。

出典などが徐々に明らかとなった。『漢語大詞典』は1979年から1993年にかけて、羅竹風を中心とした300人以上の学者によって編纂された、漢語・漢文の大型辞書である。『辞源』は、陸爾奎が中心になって清末の1908年に編纂を開始し、1915年に初版が出版された大型の部首引き中国語の辞典である。これは中国最初の近代的な辞典と見られる。また、中華人民共和国では中華書局の『辞海』との差別化をはかるために、『辞源』からは現代語が除かれて古籍専用の辞典に変化した。本稿では、初版1915年『辞源』と初版の誕生から百周年にあたる2015年に出版された第3版『辞源』を主な調査資料とする。

英華字典側は、1815年から1919年間の代表的な英華字典が台湾中央研究院近代史研究所の英華字典サイトで公開されて、閲覧・検索が可能になった。現在収録している字典は全24本。その中に全文収録するのは14本(英華字典11本、華英字典3本)、合計英文アイテム11.3万個、中国語アイテム1.8万個を含む。ほかの10本は写真画像を収録している。ロバート・モリソン、サミュエル・ウィリアムズ、ウィルヘルム・ロプシャイトなど近代中国で名高い宣教師たち編纂する英華字典も収録されている。英華字典検索サイトの一般運用により、訳語成立の事情が把握しやすくなった。

本稿で考察する英華字典を下記の表で示す。(著者は西洋宣教師の場合に、著者欄で日本語、中国語、英語の順に名前の表記を並べる)

表1 英華辞典リスト

著者	中国語書名	英語書名	刊年
Morrison, Robert (馬礼遜)	字典	A Dictionary of the Chinese Language in Three Parts. Part The First, Chinese and English, Arranged According to the Radicals	1815 - 1823
Williams, Samuel Wells (衛三畏)	英華韻府歷階	An English and Chinese Vocabulary, in the Court Dialect	1844
Medhurst, Walter Henry (麥都思)		English and Chinese Dictionary	1847 - 1848
Morrison, Robert (馬礼遜)	五車韻府	A Dictionary of the Chinese Language	1865
Lobscheid, Wilhelm (羅存德)	英華字典	English and Chinese Dictionary with the Punti and Mandarin Pronunciation	1866-1869
Doolittle, Justus (盧公明)	英華萃林韻府	Vocabulary and Hand-book of the Chinese Language	1872
井上哲次郎	訂増英華字典	English and Chinese Dictionary	1884
鄺其照	華英字典集成	An English and Chinese Dictionary	1889

顔惠慶	英華大辭典	An English and Chinese Standard Dictionary	1908
Wilhelm, Richard (衛礼賢)	德英華文科學字典	Deutsch-Englisch-Chinesisches Fachwörterbuch	1911
Giles, Herbert Allen (翟理斯)		A Chinese-English Dictionary	1912
商務印書館編譯所	商務書館英華新字典	English and Chinese Pronouncing Condensed Dictionary	1913
Hemeling, Karl Ernst Georg (赫美玲)		English-Chinese Dictionary of the Standard Chinese Spoken Language (官話) and Handbook for Translators	1916

(参考サイト：<http://mhdb.mh.sinica.edu.tw/dictionary/index.php>)

また、19 世紀の文献について、近代新聞雑誌は無視できない言語資源である。愛如生会社は晩清から民国時期の報刊をデータベース化し、1833 年から 1949 年にかけて刊行された約 3000 点・50 万期にのぼる新聞・雑誌を「中国近代報刊庫」に収録した。本文は主に『申報』を利用し、調査を行った。『申報』の正式名称は『申江新報』で、清時代の同治 11 年 3 月 23 日 (1872 年 4 月 30 日) にイギリス人貿易商のアーネスト・メジャーが創刊した。1949 年 5 月 27 日に廃刊になるまで、通算 77 年間継続し、25,600 号までを発行した、近代中国において最も発行期間の長かった、強い影響力を持っていた新聞の一つである。この新聞は、分量の多さ、ジャンルの広さ、執筆陣の多彩さ、読者層の厚さなどの点で、当時の代表的な文献資料として考えられる。

四、調査結果

4.1 調査手順

同形二字漢語動詞の語誌を探求するため、以下の手順に従い、分析を行う。

まず漢籍に出典があるかどうかを調査するために、母集団の日中同形二字動詞を『漢語大詞典』、『辞源』(1915)(2015)などで調査した。語彙の解釈欄に中国の古典に使用例が挙げられれば、中国古典語であると判断した。次に、古典語ではない語に対して、宣教師らが作り出す訳語であるかどうかを明確するために、英華辞典を調査した。しかし、1900 年以降編纂された英華辞典は日本語から影響を受けた新語がある可能性が考えられ、年代別、辞書別に調査する必要がある。また、近代中国知識人が創った語彙なのかどうかを判別するため、『申報』など近代雑誌に使用例を探り出す必要がある。

4.2 『漢語大辞典』の調査結果

初期段階の調査結果として、母集団の 2485 語彙を対象に、『漢語大辞典』に収録されている

のは 2369 語であり、残りの 116 語が収録されていない。収録されている 2369 語の内、古典書籍に使用例があるのは 1942 語である。379 語は使用例があるが、魯迅や巴金など近代文人の作品からの用例であるため、古典語とは認められない。例えば、

【悪化】：情況向壞的方面變化。(狀況が悪くなること)

巴金《家》三十：「几天以后，事情愈加恶化了。」(数日後、事情がますます悪化した。)

高云覽《小城春秋》第十八章：「環境一天比一天恶化。」(環境は日が経つにつれて悪化していく。)

【緩沖】：使冲突緩和。(衝突をやわらげる)

茅盾《子夜》十五：「蘇倫就出来作缓冲：‘瑪金！你的主張怎樣？說出来！’」(蘇倫は緩衝するために言い出した「瑪金、君の主張はどうだい？言い出して！」)

楊沫《青春之歌》第二部第十一章：「為什麼這樣呢？她猜來猜去猜到這可能是宋郁彬從中緩沖的原故。」(なんでこんなことになったんだ、彼女は勘ぐりをして、それは宋憂彬が介入して、緩衝した故だろうと当てた。)

『清史稿』は中華民国成立後に編纂した歴史書であるため、古典書籍として扱わない。出典が『清史稿』の語彙も古典語ではないと判断した。残りの 48 語は以下のように、意味の解釈だけはありながら、出典は書いていない語彙である。

【回收】：把物品(多指廢品或旧貨)收回利用。如：做好廢棉回收工作，可以增加大量原料。(もの(主に不良品や古物)などをリサイクルする、例：落綿を回収することをちゃんとやって、原料を大量に増加できる。)

【換算】：把某种单位的数量折合成另一种单位的数量。(ある単位で表した数量を、別の単位の数量に数えなおすこと。)

4.3 『辞源』(1915 版)、(2015 版)の調査結果

『辞源』(1915 版)に収録されている語彙はわずか 616 語である。母集団語彙リストの 2485 語の四分の一にも達していない。その原因の一つは本文の研究対象となった漢語動詞が当時語彙として扱われていなかったことだと思われる。また、『辞源』(1915)版は名詞を中心に、動詞は主な収録対象とされていないことも考えられる。例えば、

【演繹】：Debuction 倫理學名詞。由普通原理以斷定特殊事實之方法也。(已 146)⁸

⁸ 『辞源』(1915)は子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥巻全 12 巻があるため、

(倫理学名詞。普遍的な原理から特殊な事実を導き出す方法。)

【帰納】: Induction. 理論學名詞。亦譯作內籬。由特殊事實以推見普遍原理之方法也。(辰 204)

(倫理学名詞。「内籬」とも訳される。特殊な事実から普遍的な原理を導き出す方法。)

【施行】: 法律名詞。謂見之於實用也。(卯 191)(法律名詞。現実に発生させること。)

など 64 語は名詞として記述されていた、動詞としての用法がまだ定着されていないことが示唆される。残りの 1864 語は収録されていない。しかし、単純語の二字漢語が収録されていないに對して、複合語の名詞が収録されるケースは以下の 9 つがある。

表2 『辞源』(1915) に収録されていない単純詞と収録される複合詞

二字漢語動詞	収録される複合詞	日本語訳
压榨	压榨機、压榨器 (丑 176)	絞り器
確定	確定審判 (午 177)	確認判決
繼承	繼承法 (未 98)	繼承法
志願	志願兵 (卯 6)	志願兵
所有	所有權 (卯 75)	所有權
租借	租借地 (午 212)	租借地
沖積	沖積系、沖積層 (巳 36)	沖積系、沖積層
輻射	輻射能、輻射相稱 (酉 159)	輻射能、放射相称
鑑定	鑑定人 (戌 64)	鑑定人

それらの複合名詞については、接辞問題と語基問題にも関連する。本研究は語誌調査を目的とするため、ここでは詳しく述べない、今後の課題として残る。

第三節で既に述べた、『辞源』の旧版と新版⁹では編纂方針が異なる。『辞源』(1915)の編纂者である陸璽奎は「説略 編纂此書之縁起」の部分に『辞源』を編纂する目的について次のように述べている「海上譯籍初行。社會口語驟變。(中略)國無辭書。無文化之可言也」。すなわち、当

「巳」は第何巻目を表し、「146」はページ数を表すもの。筆者付く。以下同じ。

⁹ 『辞源』は数回修訂したことがあるが。本文は商務印書館の判断基準に従うことにする。清末 1908 年に陸爾奎(りくじけい)が中心になって編纂を開始し、1915 年に初版が出版されたものを第一版とする。1958 年に修正作業をはじめ、意見募集用稿本の第 1 分冊が 1964 年に出版されたが、文化大革命によって事業は中断した。1979 年から 1983 年までかけて修訂版全 4 冊の出版が完了したものを第二版とする。初版の誕生から百周年にあたる 2015 年に出版されたもの(オンライン版と USB 版を含む)を第三版とする。商務印書館ホームページに参照。

時中国社会は激変している時期にあたり、書籍翻譯が盛んで、生活や言語なども巨大な変化が起こった。一般民衆は本を読むことが極めて困難である。一国に辞書がなければ文化そのものがあるとはいえない。故に辞書を編纂し、語彙ないし知識を普及するためである。また、1921年に出版した『統編』に名言したように「一則注重古言。一則广收新名。正書為研究旧学之渊藪。此編為融貫新旧之津梁。」(一は古典語彙を重視し、今一つは新語を網羅する。正書は古学を研究するための淵藪であり、この編は新旧たるものを貫通するための津梁である)。一方で、『辞源』第二版(1979年版)は「刪去舊《辭源》中的現代自然科學、社會科學和應用技術的詞語；收詞一般止於鴉片戰爭(公元1840年)」(旧版『辞源』の現代自然科学、社会科学と応用技術の語彙を削除する。語彙を収録する範囲は西暦1840年のアヘン戦争までである)。第三版(2015版)は第二版を基にさらに整理し、修訂したものである。修訂する目標は「正本清源、修舊増新」である。「正本清源」は字源(形の源、音の源と意義の源)と語源(出典と初出例)を遡り、はっきりさせる。「修舊増新」は旧版の問題点と欠如している部分を修訂し、新しい項目や挿図などを増加する。語彙の収録範囲は第二版に準じ、すなわち古語専用の辞典である。

『辞源』(2015版)の調査により、2485語のうち、1742語が収録されている、残りの743語が収録されていない。また、収録される語彙の中に、991語は見出し語として収録されていないが、別の語彙の解釈・出典にみられる。例えば「愛護」という語は、『辞源』(2015版)には見出し語として収録されていないが、「廚娘」という語彙の解釈欄に「京都中下之戸、不重生男、每生女則愛護如捧璧擎珠」(都の庶民は、男児の誕生より女児の誕生を喜ぶようになる、女児を生む度に璧を捧げ、珠玉を持ち上げの如く)(宋洪巽『暘谷漫録』)。このような語彙は、語として見られているのか、文字列として見られているのか、膨大な使用例を逐次にチェックしなければ明言できないだろう。しかし、そういう「語彙」が確かに中国古典に出現したのは紛れもない事実である。故に本研究では、そういう語彙を中国古典語として扱う。

以上のように、『漢語大辞典』と『辞源』(1915版)(2015版)という三つの辞書を一通り調査した。調査結果をまとめると、三つの辞書にいずれも出典が明記されているのは384語である。『漢語大辞典』に出典があるのに対して、『辞源』(1915版)(2015版)が収録されていない、また古典用例が見られないのは736語である。『漢語大辞典』だけ出典があるのは292語であり、『辞源』(1915版)だけ出典があるのは「檢疫」一語のみである。『辞源』(2015版)だけ出典があるのは90語であり、いずれにも古典に使用例が見られないのは444語がある。その444語は非古典語であると考えられる。

4.4 英華辞典の調査結果

次に、英華辞典の調査について、前文で紹介した13冊英華辞典において、収録されている語彙は2194語がある。一冊にも収録されていない語彙は291語がある。筆者は各辞典における初出語彙数、および非古典語の444語の初出語彙数を統計した。結果として、以下の表と図に示す。(紙幅の関係で、著者名欄は中国語の表記のみ示す)

図1 英華辞典における初出語彙数の内訳

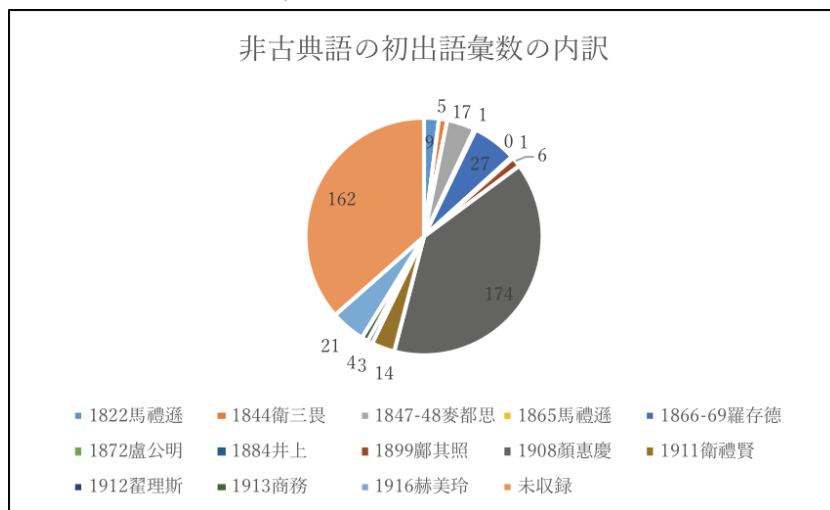
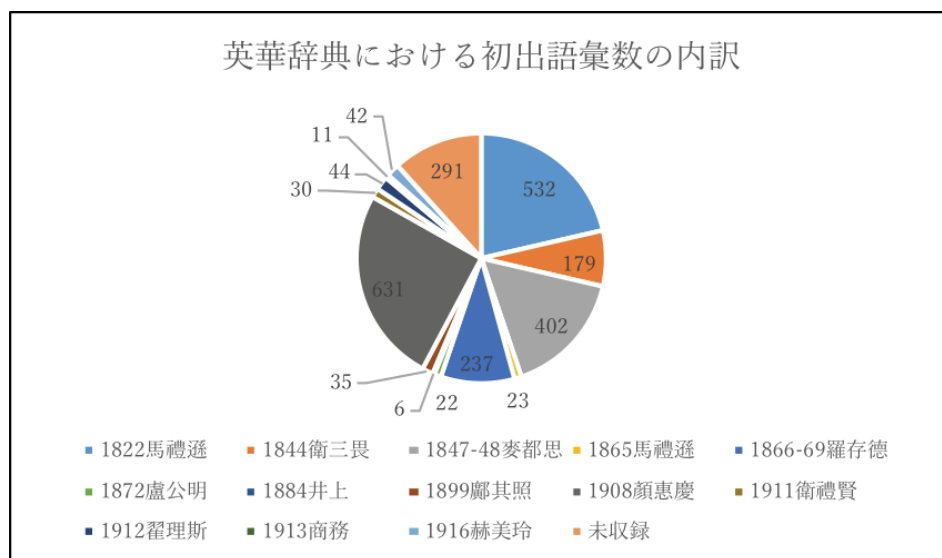


表3 英華辞典の語彙収録状況

英華辞典著者	出版年代	初出語彙	百分率	非古典語の初出	百分率
馬禮遜	1815 - 1823	532	21.41%	9	2.03%
衛三畏	1844	179	7.20%	5	1.13%
麥都思	1847 - 1848	402	16.18%	17	3.83%
馬禮遜	1865	23	0.93%	1	0.23%
羅存德	1866-1869	237	9.54%	27	6.08%
盧公明	1872	22	0.89%	0	0.00%
井上哲次郎	1884	6	0.24%	1	0.23%
鄺其照	1889	35	1.41%	6	1.35%
顏惠慶	1908	631	25.39%	174	39.19%
衛禮賢	1911	30	1.21%	14	3.15%
翟理斯	1912	44	1.77%	3	0.68%
商務印書館	1913	11	0.44%	4	0.90%

赫美玲	1916	42	1.69%	21	4.73%
未収録		291	11.71%	162	36.49%
合計		2485	100.00%	444	100.00%

図2 英華辞典における非古典語の初出語彙数の内訳



表とグラフから以下のようなことがわかる、

ア、1815-23年モリソンの『字典』、1844年ウィリアムズの『字典』、1847-48年メドハーストの *English and Chinese Dictionary* 英華辞典、1866-69年ロプシャイトの『英華辞典』と1908年顔惠慶の『英華大辞典』には、二字漢語動詞リストの70パーセント以上の語彙が収録されている。

イ、1908年顔惠慶の『英華大辞典』は語彙全体の収録数と、非古典語の収録数両方とも一番多い。

ウ、非古典語について、1908年顔惠慶の『英華大辞典』はとりわけ収録数が多い。

非古典語の444語の中に、1866-69年ロプシャイトの『英華辞典』までの辞書に収録されている59語は宣教師らの造語、もしくは当時中国の知識人らの造語かもしれない。それ以降初出した語彙は日本語からの影響を受けた可能性がある。特に1908年顔惠慶の『英華大辞典』に関して、語彙の収録数が極めて多い。辞書の規模にも関係があると考えられるが、非古典語の収録数は、ほかの辞書に比べて遥かに多い。やはり1900年以降、今まで使用頻度が低い二字動詞、言い換えれば、語として見られない二字動詞は、頻繁に使用されて、語として定着し、辞書に収

録されるようになったと考えられる。一方で、よしんば 19 世紀の英華辞書に収録されているとしても、語彙の意味変化があるかどうかについて、考察する必要がある。また、森岡 (1991)¹⁰ により、1866-69 年ロプシャイトの『英華辞典』は日本の英和辞典に大きな影響を与え、評価されている。ロプシャイトの『英華辞典』に初出した二字動詞が日本語に伝わり、定着した可能性が大きい。

4.5 『申報』の調査結果

『申報』の調査により、1900 年以後初出した語彙は 397 語がある。また、しかし、英華辞典の問題と同じで、早い時期にすでに収録されている語彙は意味変化が生ずる可能性がある。例えば、「同意」という言葉について、1879 年にすでに使用例が見られる。

「西例之戒酒與華人之戒鴉片烟同意、蓋以嗜酒爲人生第一毛病、一則過飲則害及身體、一則酒醉者輒易滋事」(「戒酒大會」1879 年 9 月 27 日 第 2302 号) (西洋人が禁酒することは中国人がアヘンを禁ずることが同じである。淫酒は人生における最大の禁物である、飲みすぎれば健康を害し、泥酔して事件を起こしやすいためである)。

「子僅知戒酒與戒烟同意而豈知戒類視戒酒爲難」(「戒烟戒烟異同述證」1879 年 9 月 29 日 第 2304 号) (貴方は禁酒と禁煙は同じことであると知っているが、禁酒は禁煙よりはるかに難しいということは知らなかったであろう)

1880 年以降も毎年何例かあることが判明したが、そのいずれにも「同じ意味、同じ意思」という古義で使われていたことが明らかとなった。一方、1904 年の使用例を見てみると、「同意」は「賛成する」の意味に転じたことが分かった。

「歐洲諸國其視神聖同盟表同意者莫如奧、最反對者莫如英」(「政法程材」1904 年 9 月 25 日 第 11294 号) (ヨーロッパ諸国において、神聖同盟に最も同意するのはオーストリア、最も反対するのはイギリスである)

五、結び

本文はこれから研究の見通しを立てるという位置づけで、日中同形二字漢語動詞のリストを作成し、日中同形二字漢語の語誌について調査を行った。『漢語大辞典』『辞源』(1915)『辞源』(2015)の調査により、2485 語の中に 444 語は漢籍に出典がないということが判明した。19 世紀の主な英華辞典の調査により、59 語は初出例が見られ、宣教師もしくは当時中国の知識人ら

¹⁰ 森岡健二 (1991) 『近代語の成立〈語彙編〉』改訂版 明治書院

の造語の可能性がある。残りの 385 語について、日本語から受けた影響を詳しく考察する必要がある。

日中語彙交流に関する研究において、特に中国語における日本語由来の外来語、借用語に関する研究は多数ある。分類方法と定義も多岐にわたる。沈(2016)¹¹は中国語に及ぼした日本語の影響は、おおよそ「借形語」「借義語」「刺激語」の三つのパターンであると主張している。

「借形語」とは、日本語から漢字の形のまま、その言葉を借りるというケースであり。これにはまた二種類ある。一つは「哲学」、「義務」、「起点」、「神経」のような新しく日本で作られた漢字語が、中国語に逆輸入し、借用されたものである。借形語の「形」は漢字の形のことを言う、「和製漢語」とも呼ばれる。ただし和製とは言え、創造過程において中国語的な要素も働いたケースが多いため、このような言葉の大半は中国人にとって違和感なく受け入れやすいということになる。もう一つは、「取締」、「打消」「場合」「引渡」など、いわゆる江戸語で、ほとんど法律用語として使われている。後に翻訳書などを通して中国語に入った。元々は訓読(混種語も含め)の語であるため、中国人にとって理拠がない場合が多く、少し分かりづらい。

「借義語」とは文字列は中国の典籍にあるが、意味は漢籍のものではなく、日本語から借りた新たな意味である、つまり語の意味の拡大や更新が日本で産出されたものである。「革命」、「経済」、「共和」、「民主」、「社会」、「関係」、「影響」など数多くある。借形語と借義語は、これまでの日本語と中国語の語彙交流に関する研究において主な考察対象である。

「刺激語」とは日本語の刺激によって活性化された漢籍語のことである。言い換えれば、日本の言葉の刺激を受けて中国で一般化した言葉である。これにも二種類がある。一つは「望遠鏡」、「熱帯」、「寒帯」、「細胞」など 16 世紀末イエズス会士たち、プロテスタント宣教師たちが中国で作った言葉が書物を通じて日本に入って訳語として一般化したものである。そして 20 世紀初頭、また日本の書物とともに中国に戻ってきた。もう一つは「学校」、「方案」、「改善」「薄弱」のような一般語である。必ずしも新しい意味を表すのではない。このような言葉は中国の古典書籍を探せば出てくるはずである。沈氏はこちらの語数が 1,000 語超えると推測している。しかも名詞だけでなく、動詞、形容詞、副詞などにわたって広く分布していると指摘している。こちらの語は中国の典籍に使用例があるので、語源的に「和製漢語」ではない。日本語の刺激により、19 世紀末、20 世紀初頭まで中国での使用が少なかったが、中訳日本書籍によって頻繁にわれ始めた。

本文の調査結果により、19 世紀末 20 世紀初頭から現れた 385 語は「借形語」と考えられる候補語彙である。残りの 2100 語について、『漢語大辞典』『辞源』(1915)『辞源』(2015)にいずれも出典がある語彙を含む、各語彙の各意味項目に対して考察する必要がある。特に『漢語大辞

¹¹ 沈国威(2016)「漢字文化圏における近代語彙の形成と交流」『高知大学留学生教育』第 10 号、19-44 頁。

典』に出典がありながら、『辞源』(1915版)(2015版)が収録されていない、また古典用例が見られない736語は、意味用法の変化の有無を考慮した上で、その変化の原因は日本語の影響かどうかにもさらなる考察する必要がある。最後に「刺激語」について、従来の語源探求だけでは、なかなか語彙の活性化を捉えにくいのが、大規模な近代文献コーパスがそういう仮説を検証する可能性を提供している。中国語側の「近代報刊資料」コーパス、日本語側の「日本語歴史コーパス」などを利用し、語彙の使用状況が把握できる。

今後の課題として、今回の調査で得られた語彙リストを土台に、個別の語対するさらなる調査を行い、借形語であれば造語者、初出例を明確したい；借義語であれば意味変化は何時、何処で、何故に、如何にして発生したのかを明らかにしたい；激語であれば、日中両国における使用状況と使用頻度の変化を把握したい。また、近代の学術名詞用語と結び付け、在来の和語動詞と構成された同義語群が発達するプロセスを解明する。

調査資料

『辞源』(1915)(初版) 商務印書館

『漢語大詞典』(1992) 漢語大詞典編編輯委員会漢語大詞典編纂処漢語大詞典出版社

池原悟ほか(1997)『日本語語彙大系』. 岩波書店

『現代漢語詞典』(第6版)(2012) 中国社会科学院語言研究所詞典編輯室 編

『現代漢語規範詞典』(第3版)(2014) 外語教学与研究出版社

『辞源』(2015)(第三版) 商務印書館

国立国語研究所(2018)『日本語歴史コーパス』(バージョン2018.3, 中納言バージョン2.4.2)

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/> (2018年3月30日確認)

申報数拠庫(1872-1949) 北京愛如生数字化技術研究中心

台湾中央研究院近代史研究所「英華字典資料庫」データベース

<http://mhdb.mh.sinica.edu.tw/dictionary/index.php>

中国近代報刊「大公報：1902-1949」データベース中国教育图书進出口有限公司 得泓資訊有限公司 聯合出版 <http://tk.dhcdb.com.tw/tknewsc/tknewskm>